

名古屋  
電博  
2022

注文の多い  
「からだの錯覚」の  
研究室展

注文の多い「からだの錯覚」の研究室展 2

# 人体の幾何学的転回

ゲストトーク 11月26日

ことばとからだのイビピーオ  
伊藤雄馬 × 小鷹研理 (司会: 金井学)

即錯ツアー 11月25・26・27日

空想の身体はどこまで伸びる?

2022.11.25(金)~27(日)

11:00~18:00(最終日~17:00)

入場無料

- [会場] 名古屋市青少年文化センター・アートピア(ナディアパーク内)  
第1スタジオ(7階)、7thCafe(7階)、ビデオルーム(8階)
- [主催] (公財)名古屋市文化振興事業団(青少年文化センター)
- [企画・実施] 名古屋市立大学芸術工学部・小鷹研究室  
(佐藤優太郎、今井健人、元橋洗佐、濱田健吾、宇佐美日苗、小鷹研理)
- [問い合わせ] 名古屋市青少年文化センター(052-265-2088)

特設HP



# 展示の概要

## 人体の幾何学的転回

小鷹研究室が考案する「身体変形」「身体の透明化」「幾何学的身体」「身体のモノ化」「主客反転」など、さまざまな錯覚を体験できます。

HMDを使ったVRコンテンツや鏡の効果を使った錯覚装置をはじめ

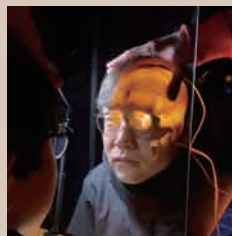
として、その多くが実際に装置を体験してもらうことによる参加型の展示となります。



新作の錯覚体験も盛りだくさん！  
からだの中のをぞいたり、自分で自分のことを踏んだり！

# 主な出展物

## XRAYHEAD



自分の頭の中の骨が触られている感じがするよ。

## スライムハンド



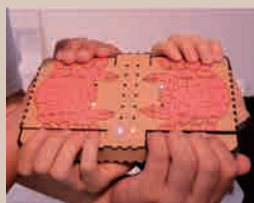
手の皮膚がほんとうに信じられないくらい伸びる錯覚だよ。

## キュービク体操



VRゴーグルをかぶって、立方体の身体になるよ。

## 蟹の錯覚



自分の手と相手の手がこんがらがるゲームで遊ぼう。

# スペシャルプログラム

## ゲストトーク 11月26日(土) 料金1500円 ことばとからだのイビピーオ、言語学との対話



前展の特別企画「メディアアートとの対話」から2年、本展では「言語学との対話」として、在野で活躍する異色の言語学者・伊藤雄馬を迎え、本展を主宰する小鷹研理とのゲストトークを行います。トークは、世界各国で制作を行うアーティスト金井学による司会です。

2022年に入って各地で公開されている、狩猟最終民ムラブリの生活を記録したドキュメンタリー映画『森のムラブリ』に出演し、各方面から注目を浴びる伊藤雄馬は、彼らがい用いるムラブリ語を研究する日本で唯一の研究者でもあります。伊藤は、ムラブリ語の中核に、概念化の装置とは異なる、くいまここに現前する身体体験の表出を見出すとともに、そうした起源的な言語使用から、人間に特有の営為としての芸術がいかに派生したのか、研究と実践を通じて大胆に探究しています。この種の伊藤の姿勢は、錯覚を通してミニマルな自己に深くコミットしようとする小鷹研究室のアプローチと通じているようにみえます。

ゲストトークでは、ダニエル・エヴェレットによる名著『ピダハン』で紹介された、「現前的体験」を指示する動詞「イビピーオ」をキーワードとして、互いの実践を足がかりに、複雑に絡み合う身体・言語・芸術の諸相を解きほぐしていきます。



時間：15時～16時30分

司会：金井学（アーティスト）

登壇者：伊藤雄馬（言語学者）・小鷹研理（からだの錯覚の研究者）

定員：25名程度を予定（申込方法は、10月以降に[特設HP]上で告知）

場所：7th Cafe（ナディアパーク7F）

特典：予約者全員に錯覚ブックレット『即錯23』をプレゼント！！

## 即錯体験ツアー 11月25・26・27日 無料 空想の身体はどこまで伸びる？



小鷹研究室では、計算機の力を借りず、鏡や日常の用品を使って即席に体験が可能な錯覚（即錯）を多数発表してきました。即錯は、空想世界において物理的な制約を超えて躍動する身体各部の変形限界を、間接的に炙り出すものでもあります。本ツアーでは、小鷹研究室に在籍し、空想身体の変異性について独創的な研究を行っている佐藤優太郎を導き手に、スライムハンド等の身体変形感の得られる即錯を順次体験しつつ、錯覚体験が有している心理学的な含意を解説します。



時間：13時～14時（全日）、15時～16時（26日をのぞく）

講師：佐藤優太郎（名古屋市立大学・博士後期課程在学中）

定員：各回で最大で10名程度を予定

（予約不要；当日定員が埋まり次第、締め切ります）

場所：7th Cafe（ナディアパーク7F）

# 展示のあゆみ

## からだは戦場だよ（2015～2019）



2015年より、毎冬に研究室展示『からだは戦場だよ』をやなげせ倉庫・ピッカフェで開催。この間、ミニマルセルフのゆらぎに由来する「きもちわるさ」の体感にフォーカスする、研究室独自の体験型による展示スタイルを確立する。『からだは戦場だよ 2018△ボディジェクト思考法』では、過去5年の総決算として、3日間にわたり、展示に加えトークセッション・レクチャーを開催し、過去最大の盛況を得た（ゲスト：古谷利裕・金井学・前林明次）。『からだは戦場だよ』で撮影された膨大な映像アーカイブは、2021年に新宿ICCで開催された展示『小鷹研究室の錯覚論争 2016-20』において、4つのディスプレイを使って紹介されている。

## 注文の多い「からだの錯覚」の研究室展（2020）

2020年より、『からだは戦場だよ』の展示スタイルを「名古屋電映博」のフォーマットに引き継ぎ、名古屋・栄を舞台に、新たな研究室展示『注文の多いからだの錯覚の研究室展』として開催。手指の骨を透視する《XRAYSPECTRO》、くり抜かれた部屋が90度まで傾斜する《Room Tilt Stick》などの新作を発表。これらの作品は、展示後に国内外で大きな評価を得ることになる。ゲストトークとして、谷口暁彦・水野勝仁を迎え「メディアアートとの対話」を行うなど、コロナ禍でありながら、3日間を通して記録的な集客を得た。なお、同展で、研究室オリジナルの錯覚レシピを紹介するブックレット『即錯23』が初めて発表された。

## アクセス



〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 3-18-1  
地下駐車場有り（有料 300円/30分）  
【電車の場合】（名古屋駅より）名古屋市中区栄 3-18-1  
山崎線・藤ヶ丘・星ヶ丘方面行で「栄駅」下車（所要約4分）、7・8番出口より徒歩（7分）、あるいは「栄駅」で名城線・左回りまたは名港線・名古屋港方面行に乗り換え、「矢場町駅」下車（所要約2分）、5・6番出口より徒歩（6分）。

# 小鷹研究室

『からだの錯覚』を中心テーマとして標榜している、日本（おそらくは）唯一の研究室。研究テーマは、幽体離脱、身体変形、セルフタッチ、透視視、ボディジェクト（身体のモノ化）など多岐にわたる。昨今、目まぐるしく刷新を繰り返すバーチャル・リアリティー（VR）技術を積極的に導入し、「具体的に体験可能なインタラクション装置」のなかで設計された一見すると異質な「からだ」のリアリティーを、様々な尺度で検証する。主宰者である小鷹研理は、2019年に認知科学会より第7回野島久雄賞を受賞。

小鷹研究室によるVR装置は国際的にも大きな評価を受けている。主要なVR関係の発表に、手足が大胆に伸び縮みする《Stretcharm (m)》(SigAsia 2017)、《Elastic Arm Illusion》(VR Creative Award 2017 Finalist)、《Elastic Legs Illusion》(CHI 2020)、幽体離脱的なインタラクションを体験可能な《Recursive Function Space》(SigAsia 2017)、《Self-umbrelling》(SigAsia 2018)、《Room Tilt Stick》(SigAsia 2021)、透けた身体内部の骨を弄る《XRAYSPECTRO》(XR Creative Award 2021)、《XRAYHEAD》(SigAsia 2022) などがある。

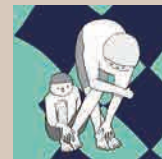


《Self-umbrelling》

2019年、鏡とディスプレイを組み合わせたインスタレーション《ボディジェクト指向》が、第22回メディア芸術祭・アート部門の審査委員会推薦作品に選出され、同年アルスエレクトロニカのキャンパス展に出品。また、《ボディジェクト指向》より派生した錯覚『Bodiject Fingers』が、Best Illusion Contest of the YearのTop 10に初めて選出される。その後、2019～2021年にわたって3年連続で小鷹研の作品が同コンテストで入賞（XRAYSPECTRO、SLIME HAND）。これらの体験は、NHK、日本テレビ、YAHOO、New Scientistなど、国内外の多くのメディアに取り上げられている。

小鷹研究室は、外部機関による展示にも積極的に参加している。主なものとして、2017年に名古屋科学館『さわってビックリ！見てフシギ？人間の皮膚』に参加。2021年には、NTT インターコミュニケーションセンター（東京新宿）で開催された、ICC オープンスペース 2021「ニューフラットランド」に参加し、およそ半年にわたって『小鷹研究室の錯覚論争 2016-20 / 頭部解放宣言』の展示を行うとともに、関連イベントとして、2日間のオープンラボ「頭部解放前夜」を実施。また、2021年12月より、旭川市科学館・サイバルにおいて『蟹の錯覚』が常設展示されている。

# 即錯23



即錯23：不器用の足踏巻

小鷹研究室オリジナルの即席錯覚を23種類集めた、全く新しいコンセプトの錯覚ブックレット。展示会場で販売予定です。